

名古屋芸術大学グループ 通信

44
July
2018

プロは、
オールマイティ

Love.

DANCING

特集 Feature

ダンスパフォーマンスコース



名古屋芸術大学グループ

<http://www.nua.ac.jp>

Close-up! NUA-ism

～進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-OB

欲張って頑張ってる喜んでもらう

長縄貴人

NUA-Student

デザイン学部デザイン学科

メディア&コミュニケーションブロック

イラストレーションコース4年生

田中彩真

News/Topics

ニュース&トピックス

■「芸術学部新入生全員でFirst Year Seminar (フレッシュマンキャンプ)」を実施しました!

音楽領域

■「第2回 トロンボーンフェスティバル」が

開催されました

■「平和のピアノ」が

開催されました

■音楽学部同窓会

「第37回 新人演奏会」が

開催されました

美術領域・デザイン領域

■テキスタイルデザインコース

学生・卒業生が

「有松絞りまつり」に出品

名古屋芸大グループ校特集

■名古屋芸術大学保育専門学校

「保育専門学校のプレ実習

(幼稚園)」の取り組み

コラム NUA

写真家を目指していた若き日の思い出

人間発達学部 准教授 東條文治

Master's Artist

マスター級アーティスト

美術の影響力

デザイン領域 イラストレーションコース

デザインファンデーション担当

丸岡慎一

Information

インフォメーション

■ 出版

■ 2018年度オープンキャンパス日程

■ 2018年度音楽領域演奏会スケジュール(予定)

■ アート&デザインセンター

2018年度展覧会スケジュール(予定)

■名古屋芸術大学/大学院: 音楽研究科 学部学科: 芸術学部 芸術学科 ■名古屋芸術大学保育専門学校
美術研究科 音楽領域 デザイン領域 ■名古屋芸術大学附属クリエイト幼稚園
デザイン研究科 美術領域 芸術教養領域 ■滝子幼稚園 ■たきこ幼稚園
人間発達学研究科 人間発達学部 子ども発達学科 ■愛知保育園 ■名古屋音楽学校



プロは、
オールマイティ



Love. DANCING

Feature **特集**

ダンスパフォーマンスコース

本学では、2019年度から音楽領域に新たなコース、「ダンスパフォーマンスコース」を設置します。小中学校の必修科目にヒップホップダンスが取り入れられたことが大きな話題となりましたが、このほかにもインターネット動画の「踊ってみた」や全国の都市で行われている「よさこい」など、以前にも増して“踊ること”の魅力と楽しさが広がっているように見受けられます。ダンスは、コンサートやミュージカル、セレモニー、イベントなど、さまざまな場所で用いられ、シーンを彩る重要な表現手段になってきています。「ダンスパフォーマンスコース」では、あらゆるシーンでマルチに活躍することのできるプロダンサーの育成を目指します。今回の特集では、この新しい「ダンスパフォーマンスコース」をご紹介します。



見る人を楽しませるダンスを

森泉博行 音楽領域 ミュージカルコース
エンターテインメントディレクション&アートマネジメントコース教授

スペシャリストになれる道も

これはそう簡単にはいかないと思いますが、最初の2年間でさまざまなダンスをやりまします。その中で、若い方たちの中には奇跡的な能力を持つ方、また驚くべき努力を積み重ねる方がいます。そうした方たちは、何万人の中の一入といった存在かもしれませんが、ダンスのスペシャリストとして日本だけではなく広く世界で活躍できる、そういう可能性のある方です。そうした方が、必ず若い方の中にはいます。もしも、そうした学生が出て来たならば、やはり超一流のスペシャリストに育て上げる。そういうスペシャリストを育てるための環境も整えています。若い間は、どういうふうにも才能が弾けるかわかりません。ですので、教員らが目を凝らしながら、そういう可能性を見つけたいと考えています。

複合的なカリキュラム

あらゆるダンスの基本となる、バレエを基にしてヒップホップ、ジャズ、この二つからまずはスタートします。そのほかマルチな能力を磨くために、ポップスを歌うヴォーカルの授業、演技を学ぶアクティングの授業、現在の2.5次元ミュージカルに必要な剣を使うようなアクションの授業、おそらく4年間でエンターテインメント、あるいはショービジネスの世界に必要な要素はすべて身につける、そういうカリキュラムになっています。さらに、仕事をする

にあたって必要になるのは英語です。高校や中学の英語とは違って、仕事をする上で必要な、ダンサーとして海外で仕事をするために必要な英語です。ダンス用語、舞台に立つにあたって必要な英語教育を行います。また、ダンスでは、音楽の理解も大切です。音楽の歴史的背景や曲構成を理解するための音楽理論も学んでいただきます。

見た人がハッピーになるダンス

ダンスというのは大変魅力的なものです。踊っていると達成感があり、上手下手、できないといったことを別にして、踊っている人自身がある種の興奮と達成感とハッピーな気持ちを感じるものです。ですが、ダンスコースで目指すのはそういうダンスではありません。踊っている方が楽しいダンスではなく、見ている方たちがハッピーになるダンス。見ている方たちが、見て良かった、また見に来たいと思う、そのようなダンスです。そういうダンスを皆さんで作っていただきたいと思います。私たちが目指すものは、観客がいて成り立つショービジネスです。あらゆるパフォーマンスは観客のためにあります。観客を楽しませるということには、自己を磨き鍛錬するというつらい部分もあります。でもそれを乗り越えることが、感動を生み観客を楽しませることにあります。私たちは、その精神を忘れないように取り組んでいただきたいと思います。

(※6/9オープンキャンパスにて)

マルチな能力を身につける

仕事をするにあたって、いろいろなダンスができるということは非常に大事なことです。入り口はヒップホップでもジャズダンスでも構わないのですが、ダンスを仕事とするならば、一つの種類しか踊ることができないのではなかなか仕事の幅が広がりません。そこで、本コースでは、ジャズ、そして学年が上がっていくにつれてタップ、コンテンポラリーなどを修得し、卒業するまでにはさまざまな種類のダンスが踊れるようにします。これが、一つ目の目標です。

さらに、従来、ダンサーというのは踊ればよいというものだったのですが、最近では需要が変わってきています。ダンサーでありながら、歌うことやお芝居ができる、というような要素が求められています。その人の個性としてダンスにもうひとつ加わると、コンサート、イベント、娯楽番組といったものだけではなく、ミュージカルの世界まで仕事の幅が広がっていきます。このコースでは、マルチな能力を持ったダンサーを育てるということも目標になります。



CHANCE&PER

あらゆるジャンルに対応

ヒップホップ ジャズダンス クラシック
歌唱 演技 ダンスのため

ダンサーとしての演技力、
さまざまな舞台に立つパフォーマーとしての
表現力を身につけます

- ▶ 業界に通用するさまざまなジャンルのダンスについて幅広く学びます。
- ▶ ヴォーカル、アクティングを始め、エンターテインメント全般について学びます。
- ▶ 他コースとの連携により、ダンスに関わるさまざまな分野で活躍できる人材を育成します。
- ▶ ボーダレスな学びにより、現代社会で求められている高いコミュニケーション力や幅広いスキルを身につけます。
- ▶ 必要なスキルを修得し、プロのダンサーだけでなく一般企業への就職も可能です。

ダンス業界で活躍する 現役ダンサーによる指導



古賀明美

振付師・ダンサー / 名倉ジャズダンススタジオ・カンパニーメンバー
クラシックバレエ、モダンダンスからジャズまで、幅広いジャンルのダンスをマスター。数多くのダンス公演、コンサート、ミュージカル、テレビ番組などに出演。



Love. DANCING

名古屋芸大を目指すボーダレス化の音楽版



教務学生主任 准教授
長江和哉

音楽領域主任 教授
依田嘉明

音楽領域主任補佐 准教授
伊藤(杉田) 孝子

—ダンスコースが設置される背景には、どんなことがあるのでしょうか？

依田：いろんなコースが本学の音楽領域の中にありまして、音楽総合コースも含めると全部で10コースあります。その中で、身体を使った表現というものを考えてみると、ミュージカルコースしかありませんでした。

身体表現という、芸術の要素として非常に高い分野としてあるわけですが、本学ではその部分はミュージカルコースだけなのです。一方で、最近では小中学校の授業でも、「現代的なリズムのダンス」としてヒップホップダンスが取り入れられています。でも、現在の

大学では、そうした身体表現を学ぶことのできる専攻がほとんどありません。義務教育、あるいは高校のクラブ活動で行われてきたダンスをさらに深めて学びたい、そうした需要があるだろうと考えました。欧州では、音楽の専門学校、パリのコンセルヴァトワールというようなところでは、舞踊のコースがあり

ます。しかし、日本ではそのようなコースを設けているところは非常に限られています。日本の音楽大学、芸術大学ではまだ、欧州で当たり前のものがないのが現状なのです。

—欧州の場合、クラシックバレエとつながっているといえますが、ダンス全般を学ぶことができるのでしょうか？

依田：クラシックの中ではバレエになりますが、舞踊といいますと、現代舞踊もありますし、先に小学校で取り入れられていると説明しましたヒップホップもあります。表現としてはさまざまなものがあります。まだ、カリキュラムを作っている最中ではありますが、さまざまな身体表現をやっていける、ヒップホップやバレエといったダンスのカテゴリーに捕らわれない、さまざまなダンスを学ぶことができるコースになると思います。

長江：ウィーン国立音楽大学も、ウィーン音楽演劇大学というのが正式名称で、音楽だけではなく演劇・舞踊などの舞台芸術も含まれ

PERFORMANCE

できるマルチなダンサーへ



クラシックバレエ コンテンポラリーダンス の音楽知識 実践的な英語

ダンスで芸術表現を行う基礎を実践的に学び
歴史やその背景を学びながら必要なリズム感を体得

音楽表現実技I～II (1・2年次)

あらゆるダンスの基礎となるバレエレッスンは“ダンサーの身体”を作り上げるうえでとても重要なものです。このレッスンで基礎力を養うことで、様々なジャンルのダンスに対応出来るようになります。

ジャズダンスでは基本的なステップから始め、コンビネーションへと進みます。このレッスンでは“ダンサーの身体”を作り上げると共に様々なダンステクニックを学ぶことになります。

ダンス実技IからIV (1から4年次)

■ ジャズ

ジャズダンスはミュージカル(ステージ及び映画)、コンサートの中心となるものです。ジェローム・ロビンズのパーフェクトバランスを目指すダンスからボブ・フォッシーのオフバランスまで、ジャズダンスの全てを学びます。

■ ヒップホップ

ヒップホップは70年代に登場した新しいダンスで、ラップ、DJ、ブレイクダンス、グラフィティなどと呼応しています。

ここではそうした要素を学ぶと共にヒップホップの基礎的なテクニックを学びます。その後ソロとルーティンのコンビネーションへと進んでいきます。

ています。ダンスを学ぶことのできる環境が整うことで、やっと世界と同じ形になっていけるのではないかと思います。

—設置に向けて動き出したのはいつ頃からでしょうか？

依田：竹本学長が主導で、3年ほど前から動いていました。

長江：現代舞踏の部分をいろいろと調べられて、どういうふうなそれらを組み合わせられるのかの可能性ですね。

伊藤：名古屋芸術大学は、そのポテンシャルを持っていたと思います。クラシックが主体となってやってきましたが、5年ほど前から音楽の応用ということで、サウンドメディア、音楽療法、音楽ビジネスというコースができました。演奏家という部分だけではなく、音楽に関する演奏以外の部分ですね。音楽というものは、身体性、演技性などを含めて、総合芸術ではないかと思っています。ですが、真正面からそれらを大学で専門教育とい

うことで教えることはこれまでありませんでした。名古屋芸大では、割合早くから、演奏以外の部分にも取り組み、そうしたことに取り組んでいるという土壌がありました。そこで徐々に専門が加えられていきました。声優コースも、音楽大学にはあまりありませんね。声優コースに入って来てくれる高校生も音楽をやっていない子たち、演劇部の子が多いんです。音楽領域のコースに、音楽をやってきていない学生が入ってくる。でも、そこそが名古屋芸大が目指すポダレス化の音楽版であると思っています。そこで、音とかリズムとか身体性というものは一体何なのかということを融合的に考える。ほかの分野、例えば美術・デザイン領域のある西キャンパスの学生とつながることができる機会も増えますし、また、クラシックの演奏家とのコラボレーションということでも世界が広がります。音楽と身体表現、さらにほかのジャンルのアートと関連することで、非常に奥深いものがあるであろうと想像しています。現在、

ヒップホップダンスをやっている中学生や高校生がたくさんいます。ヒップホップから入って、踊りが好き、身体表現が好き、でも専門的にどうしたらいいかわからない。これではヒップホップを踊り続けるしかありません。そうではなく、身体表現というものにはものすごく可能性があるんだと、大学という場所であればできるのではないかと考えます。入り口は、ヒップホップを好きな人が入って来て、でも出口はもっともっと広いよと！そういうところにしたいと思います。

長江：どのコースもそれが全部つながっていて、それが芸術でありアートであり、自分で考えて表現し、それを人が観たり聴いたりして心が動くかどうかということですね。それはどんなジャンルも同じことではないかと思っています。いろんな領域のアートがつながることで、新たな可能性が見えてくること、高い次元に発展することを期待しています。

授業科目	授業の方式	履修期間	単位数	開講年次と単位数				備考
				1	2	3	4	
音楽芸術基礎研究	講義	半期	2	②				ダンスの世界
音楽表現実技I	実習	通年	8	⑧				バレエ
音楽表現実技II	実習	通年	8	⑧				ジャズダンス
ダンスパフォーマンス表現実技I	実習	通年	8			⑧		ジャズまたはヒップホップを選択
ダンスパフォーマンス表現実技II	実習	通年	8				⑧	コンテンポラリー
ダンス実技I-1	実習	半期	1	①				ジャズまたはヒップホップを選択
ダンス実技I-2	実習	半期	1	①				ジャズまたはヒップホップを選択
ダンス実技II-1	実習	半期	1		①			ジャズまたはヒップホップを選択
ダンス実技II-2	実習	半期	1		①			ジャズまたはヒップホップを選択
ダンス実技III-1	実習	半期	1			1		ジャズまたはヒップホップを選択
ダンス実技III-2	実習	半期	1			1		ジャズまたはヒップホップを選択
ダンス実技IV-1	実習	半期	1				1	ジャズまたはヒップホップを選択
ダンス実技IV-2	実習	半期	1				1	ジャズまたはヒップホップを選択
アクティングI-1	実習	半期	1		①			身体表現基礎(基礎演技)
アクティングI-2	実習	半期	1		①			身体表現基礎(基礎演技)
アクティングII-1	実習	半期	1			①		身体表現応用(ミュージカル表現)
アクティングII-2	実習	半期	1			①		身体表現応用(ミュージカル表現)
アクティングIII-1	実習	半期	1				①	身体表現(ステージングを含む)
アクティングIII-2	実習	半期	1				①	身体表現(ステージングを含む)
ヴォーカルI-1	実習	半期	1	①				演奏実習I-1(声楽基礎)
ヴォーカルI-2	実習	半期	1	①				演奏実習I-1(声楽基礎)
ヴォーカルII-1	実習	半期	1		①			演奏実習II-1(ジャズヴォーカル)
ヴォーカルII-2	実習	半期	1		①			演奏実習II-1(ジャズヴォーカル)
ヴォーカルIII-1	実習	半期	1			1		演奏実習III-1(ポップス)
ヴォーカルIII-2	実習	半期	1			1		演奏実習III-1(ポップス)
ヴォーカルIV-1	実習	半期	1				1	演奏実習IV-1(ジャズまたはポップス)
ヴォーカルIV-2	実習	半期	1				1	演奏実習IV-1(ジャズまたはポップス)
マルチメディアアート(音と映像の融合)1								音楽制作やリミックス
マルチメディアアート(音と映像の融合)2								映像PV制作
ショービジネス研究	講義	半期	2		2			
エンターテインメントディレクション特殊研究	演習	半期	2	2				

※カリキュラムは現在検討中であり、掲載のものから変わる可能性があります。

Love. DANCING

新任講師に訊く チャレンジして欲しいです



森泉博行 教授

古賀明美 准教授

音楽領域 ミュージカルコース
エンターテインメントディレクション&
アートマネジメントコース



ダンスの基礎はバレエ

—ミュージカルコースとダンスコースにはどんな違いが？

森泉：おそらくバランスの問題だと思います。ダンスコースはやはりダンスがメインになります。それに付随するものとして、演技や歌がある。ところが、ミュージカルコースの場合には、この三つのバランスが均等だと思うんですね。そこがちょっと違うと思います。ミュージカルというのはあまりヒップホップを使わないんです。ミュージカルの基本はジャズダンスです。ところがヒップホップ人口がこれだけ増えていますので、そこを吸収していくためにはやはりミュージカルだけでは無理があります。それでダンスコースを設けることになりました。

—ダンスというものは、もっと幅が広いものですか？ そういうところに向かっているのかなと感じていますがいかがでしょう？

古賀：基本どんなダンスであっても、やはりバレエが基本となっています。そこからジャズダンスやいろんなダンスがあるのですが、ヒップホップだけはちょっと別の成り立ちなんです。ストリートで踊れる、誰でも踊れる、それが利点でこれだけ人口が増えています。バレエやジャズダンス、そのほかのダンスのように基礎から身体を作っていかなければいけないようなダンスとはまた一つ違ったものでもあります。ただ、これだけ広まって人口が増えている中では、ヒップホップだけというのは活動の枠が限られてきてしまいます。ダンスを仕事として捉えたとき、さまざまなジャンルを踊ることが現在すごく求

められています。

—何でも踊ることができる、それが求められている？

古賀：踊れた方が良い、でしょうか。ヒップホップダンサーもいろいろいらっしゃいますが、ちゃんと基礎のできている人、バレエまでいなくてもジャズダンスをやっているヒップホップダンサーの方、全く基礎をやっていないヒップホップだけの方とは、どうしてもやはり違いが出てきます。仕事で求められたり、コンクールや大会で上位に行くためには、ある程度のヒップホップ以外のことも学んでいる方のほうが結果が良いです。

勇気を持って臨むことのできる基礎を作る

—ミュージカルコースはショービジネスを強く意識していますが、ダンスコースも同じように？

森泉：そうですね。言ってしまうと、ほとんど職業訓練のようなものです。ダンスコースを卒業しました、卒業した後コンビニでバイトです、みたいなことではなんのためにやって来たのかわかりませんから。大学ですので勉学ですが、職業訓練コースつもりでやらないと、ダンスはダメだと思っています。

古賀：おそらく学生一人一人、違いますが、大学の間にはできるだけベースを作ってあげるといってもいいかもしれません。しかし、どこ

へ行っても、どんなオーディションでも迷いなく受けることができる、勇気を持って臨める、そうした基礎を作ってあげたいと考えています。経験していないことを要求されると、どうしても無理かなと弱気になってしまいます。そういうことがないように、どんなことでもある程度はやれると、そういう基礎と自信を作ることができようかと考えています。

もっと上を目指して欲しい

—お二人とも業界のことにお詳しいと思いますが、ダンサー需要の高まりを感じますか？

森泉：僕は、足りていないと感じますね。とにかくヒップホップダンサーはたくさんいますが、このコースで目指しているようなマルチなダンサーというのは少ないですね。やっぱり作品を作ることのできるダンサーはやっぱり足りないのが現状だと思います。

古賀：どうでしょうね。ダンス人口はすごくいるんですけど、しっかりしたものをやろうとしていない。そんなことよりも手軽に踊れることの方を選んでしまっている。だからこそダンサー人口が増えてきてはいるんですけども仕事としてつながらない、プロダンサーの域に達していないように感じます。

森泉：たぶんヒップホップというのは、本人がやって、それで満足してしまうものなん



演を考えています。なるべくたくさんの方に
見ていただこうと計画しています。

必ず、踊れるようになる！

短所を長所に、それが その人の個性に

—どんな学生に来て欲しいですか？

古賀：どんな子に来て欲しいというものはないです。ウェルカムです！ できない人大歓迎です！ ただ、どん欲に、何にでもチャレンジできる人、チャレンジして欲しいですね。やる気のある人なら、必ず、踊れるようになります。思ったようにできないとか、そんなことばかりですからねダンスっていうのは。やりたいな、踊りたいな、踊りが好きな人がダンサーですから、気持ちさえあればウェルカムです！

—それから、ダンスコースから入って、自分はダンサーは無理かもと思ったとき、ショービジネスの世界に関わっていくことができる授業も用意されていますよね。

森泉：そこもとても大事なところですよ。もちろん、第一目標は全員ダンサーとしてやっていただくんですけどそれがかなわない場合、コンサート、ミュージカルの周辺には、できる仕事がたくさんあります。エンターテインメントディレクション&アートマネジメントコースの授業も取れるようにしてあります。舞台に立たない場合は、舞台を支える側に回れるという体勢もとっています。実際のスタッフでも、ダンスを理解するというスタッフはじつはそう多くはないんです。でも、これは本当に必要で、ダンスコースで学んで、舞台を支える側になったという人が出てくれば、これは非常に貴重な人材になります。大学である以上は、しっかりとそうしたことまで考えてやっていきたいと思っています。

じゃないかと思えます。ジャズダンスでは、
できたと思うことが少ないじゃないですか。

古賀：そうですね。ヒップホップの場合、目に見えてダメなテクニックというものがあまりないんですよ。自分が踊ってみて、私、ダメだったと自己嫌悪になるようなことがないですね。ジャズやバレエなんかは、明らかにもっと練習しなきゃできないっていう、やっぱり高いところがあります。それがヒップホップの場合には、あまり劣等感を抱かなくても踊れてしまうところがありますね。やって楽しい、だけで終わってしまう。身体を動かすのが好き、踊るのが楽しい、そこが入り口で、そこから一つできるようになって嬉しい、単純なことですがその繰り返しだと思います。それで衣装を着て舞台に出ました、もっと楽しい。そうして、もっともっと上を目指していく。そうやって欲しいですね。

—ミュージカルコースでは、定期公演など発表の場が多く設けられていますが、どうなるのですか？

古賀：定期公演ですね。

森泉：年に何回か計画しています。ダンスはスタジオでレッスンをしているだけでは意味がありませんので、やっぱり成果を見ていただいて、それをまた反映させるということが大事です。今のところ考えているのは学内で年に何回か、1年のまとめとして学外での公

—今回、体験レッスンを見せていただきましたが、中には身体の硬そうな子がいましたね。

古賀：たぶん、ストレッチなんかはあまりやっていないと思いました。でも、そういう方もそこからしっかりとやっていきますので安心してください（笑）。じつは私も、すごく身体が硬くて、ダンサーとしては珍しいほどなんです。それを逆に、表現でカバーしようとしてずっと研究しながらやってきました。ですから、硬い人の気持ちはよくわかります。身体の柔らかい人では、硬い人にどう教えていいのかかわからないと思いますよ。

森泉：今の古賀先生の話はとても重要ですね。中には背の低い、それを何とか踊っているときに大きく見せようという工夫をしている方であるとか、それぞれ個性や特徴を持っていますが、それを乗り越える。工夫して短所を長所にするというんでしょうか、それがダンサーたちのすごいところですね。そういう精神をぜひ学生に伝えていきたいと思えます。それを克服できた方というのが、ダンサーとして上のレベルに上がっていきます。

古賀：いかに手足を長く見せるかというのもそれもテクニックです。悪い言葉でいえば、ごまかしですけど、できないことを何とか上手く見せる。そう見せるための工夫が必要なわけですから、それもテクニックなんですよね。それがとても大事です。

欲張って
頑張って
喜んで
もらおう

就職が駄目だったからって、別にそこで人生が決まるだなんて大げさには思っていないからといって別にいい時間は待っていません。それは目先の話だけであって5年後、10年後どうかと言ったら、やっぱり頑張ったもん勝ちなんですよ。人に俺、頑張ったよって言えるぐらい頑張らないと、駄目なんじゃないのかと思います



www.baroqueck.com



REFEREE



"Felight"

塗る金属「Felight」の商品企画段階から、ロゴデザイン、カタログ、LIVING & DESIGN 2014、HOSPEX JAPAN2014のブースまでデザイン

Vol.88
NUA-OB

株式会社 バロック

代表取締役

長縄貴人 (ながなわ たかひと)

- 1980年 岐阜県生まれ
- 2003年 美術学部デザイン科
スペースデザインコース卒業
大学卒業後、設計、施工会社に勤務
- 2008年 会社再建に尽力、
認められて取締役任
- 2012年 独立、株式会社バロック立ち上げ

住宅、店舗の新築・リノベーションを主に、オリジナル家具、雑貨制作販売、服飾制作販売、グラフィック事業、webデザイン制作、ディスプレイ全般など幅広い事業を手がける

一宮市の某所、施工中の店舗にお伺いした。古い織物工場をアパレルショップへとリノベーションするという。ゴツツ、ゴツツと足音が響く厚みのある板張りの床。織機が置かれていたと思いき場所は、コンクリートがむき出しである。壁の半分には石膏ボードが貼られ新しくなるのだが、残りの半分は鉄骨が剥き出しのままで、織機の配電盤やスイッチがそのまま残されている。古いものと新しいものが混在することによって引き起こる化学反応を楽しむためのスペースだと説明する。新旧が共存する空間は、織物工場だったというショップのルーツも雄弁に物語る。打ち合わせに訪れていた施主さん、工務店の方にテキパキと説明し、細部について意見を交わす。迷いなく判断し、説明する姿は、ハキハキと気持ちよく、強いリーダーシップを感じさせる。「人たらしなんですよ。人が好き。どこまでいっても最後は人。相手が人じゃないと面白くないですよ」笑顔で話してくれた。

デザイナーという仕事を意識したのは小学生の頃。グラフィックの仕事に就いていた叔父のアトリエを見て「こういう世界があるんだ」と知ったというから

早熟である。小学校の卒業文集には、デザイナーになりたいと書いたという。そのまま順風満帆に進むかといえば、そうならないのが世の常。父親は

学生に剣道を教えていて、大学に入るまでは剣道漬けの日々だったという。「高校2年生のときに岐阜県選手権大会で優勝したんですよ。ずっと剣道をやってきて、父親としては、警察官が学校の教員になって全日本選手権に出て活躍して欲しい、警察になれとか教員になれと、よく言われました。でも、剣道で来た推薦は断ってしまって、画塾に行つて芸大に入ろうと」では、一途に絵の道へという、これもまた違う。一途でもあり、行き当たりばったりでもあり、でも、そこが人を魅了することにつながっている。そして、デザイナーとして進む決定的な出来事が起こる。「服にもすごく興味があって、コム・デ・ギャルソンに服を買いに行つたんです。その時、空間の在り方と服の在り方、人の在り方にすごく感銘を受けました。すごくシンプルに空間が作つてあって、あくまでも服が目立つようになっていて、それを着る人が主役であるという、その関係性にすごく感動しました。空間デザイナーっていいなと思いました。





木と鉄と左官壁の家



AFFICHE



アメリカンスタイルの家



重なり逢う家



限りなく白い家



kicori cafe



Mellowness House



着心地の良い家



青木内科・眼科



スープの美味しい家

作品と言っているのは、日本画とか洋画とか自分の価値観で描くのが作品。だから商業的なデザイン科は作品と言っちゃ駄目なように思います



それが、きっかけかもしれません。洋服も空間も似てると思うんです。両方、人を包み込んでいて人を際立たせる」かくしてスペースデザインを専攻するのだが、デザインの在り方については区別はないと話す。ただスペースデザインは空間そのものを考えるため、そこに含まれる要素、グラフィックであったりプロダクトについても考える。「欲張りなんです。欲張りがゆえにスペースデザインを選びました」



卒業したのは、就職氷河期といわれた頃。現在よりも厳しい時代だった。「大学3年生の時に、非常勤講師なった先生がいらして、その人がいた設計会社に入れてもらったんですよ。施工もする会社で、2年間は建築現場にいました。生コンを運んでたし、鉄筋を組んだり、結束もできますし。初めは、僕にできる仕事は何もなくて、最初の半年は無給で働かせて下さいと、給料無しで入れてもらいました。6か月経って現場が楽しくなっちゃって、2年ぐらい現場をやりましたね。どうしてもやりたいことがあるなら6カ月なんて短いことだと思って、そうやって来ました」

現場から設計部門へ移ると、今度は会社の危機が待っていた。「最初は、先輩たちがやりたくない嫌な仕事をやって勉強してました。そのうち、会社の経営自体が芳しくないことが説明され、多くの先輩たちが会社を去りました。でも、自分にとってはそれが転機で、だったら仕事を増やさないと、と考えました」設計事務所としては、当時ではまだ珍しかった大々的なオープンハウスを作り、集客のためハウスメーカーの住宅展示場の駐車場でピラ撒きをするなど、なりふり構わぬ行動で会社再建に尽力した。そうしたことが功を奏し、業績は良くなり大きく評価され、やがて独立することへとなっていった。



「いろいろなことに興味のある人じゃないと駄目ですね。新人でも、次何をやればいいですかと聞いてくるのは子供と同じ。手が空いているのでこれを調べたいんですとか、仕事振って下さいとか、やれることないですかとか、そういう姿勢が大事ですよ。石の上にも三年というじゃないですか。やりたいことがあるなら、3年くらいはそれこそ石にかじりついてでもやらないと。」

そうすると面白いところがわかってくるものだと思います。逆に3年はやってみないと何もわからないですね。例えば最初の半年でめちゃくちゃつらいことがあっても辞めちゃ駄目ですよ。辞めるのは簡単だけど、続けるのが大事。事業も、経営も同じです」経営者からの厳しいエールをいただいた。だが、それと同時に「施主さん、オーナーさん、いろんな人に喜んでもらったから今の仕事があります。建築家の中には作品を作るというふうを考えてる人がいますけど、僕は、作品を作るという言い方が好きじゃありません。僕は、家を作る、店を作ると言っています。より施主さんの個人的なものを作っている感覚です。形に残るものじゃなくてもいいんですよ、人と人が幸せになるような、そんなことをずっと考えています」自由闊達、破天荒な行動力も、人が好きだという感情に源があると見えた。「人たらし」というと人を騙すような意味も含まれてしまうが、人に魅了されるから人を魅了できるということがよくわかった。

やってきたことを形にしたいな



Vol.89
NUA-Student
田中彩貴

(たなか さき)
デザイン学部デザイン学科
メディア&コミュニケーションブロック
イラストレーションコース4年生



2年生の課題で制作した動物画(アクリル)。クールな印象を与えたくて瞳の色に実際には無い色を混ぜたり試行錯誤(2016年)

アイスコーヒーの商品広告を想定して制作したイラスト。初めて3Dソフトを導入(2017年)

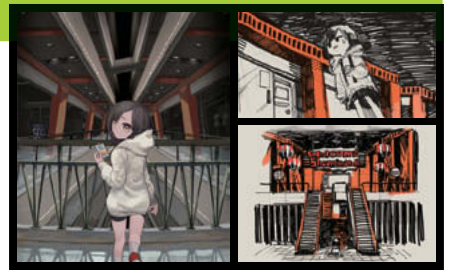


「花の蕾が開く前の晩、花に香りをつける為蕾に匂いを注いで回る仕事を生業としている妖精」という設定で制作したキャラクターイラスト。トルコランプ×ポット×香炉をイメージして制作した小物がお気に入り(2018年)

人物の練習で写真を見ながらスケッチしていたもの(2018年)



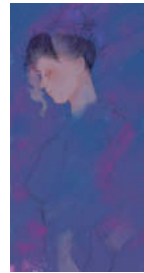
桜丘学園高校の学園祭「櫻輝祭」の巨大な正門ゲート、制作リーダーという重責を担う。学園祭の間、飾られるのはもちろん、市民カーニバルとして一般にも広く公開された。



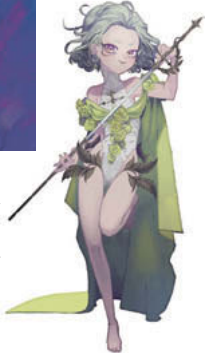
自分で考えたゲームのイメージイラストと絵コンテ。引っ込み思案な女の子が自分の精神世界を彷徨い自分の苦手と向き合い克服しながら冒険して成長するお話(2017年)



新しく入手したアプリで塗りについて試行錯誤する為に描いていた絵(2018年)



花×騎士×少女をテーマに制作したキャラクターイラスト。左はソーシャルゲームのキャラクターのようにリアルティが変化した姿を想定して制作したイラストラフ(2017年)



4年生、いきなりだけ就職？ そろそろ世間では採用面接が始まるみたいだけど……

おかげさまで、決まりそうです。まだ、決定ではないんですけど、東京のイラスト制作会社から声をかけていただいています。去年の夏、インターシップに行ったのですが、普段、自分では描かないようなイラストを描いたりしてそれが楽しかったです。

願ったり叶ったり、なんだね。おめでとう！ ちょっと早いか(笑)。やっぱり小さい頃から絵が好き？
そうですね。保育園のときにお父さんの似顔絵を描くというので賞をもらって、みんなにすごいねって褒められて、すごくうれしかった記憶があります。祖母の家へ行くと、裏が白い新聞広告がたくさん残ってあって「はい、さきちゃん」って、ドンッて感じでした(笑)。

裏紙とおばあちゃんに感謝だね。小さい頃から、ずっと絵を描いて、美術部に入ってというパターン？

あまり将来のことを考えたことはなかったですね。ただ、ずっと絵を描いている子供で、そのままやってきた感じですね。中学は、普通の公立中学に入って、別段、美術とか選べなかったんですけど、3年生になって美術系に行きたいな思い、そのときに美術部を作ってみたり……。

ちょっと待って！ 美術部を作ったの？ 作りましたね！

ええっ、美術部なかったの！ 初代部長さん！
はい！ 部長になりました(笑)。美術の先生が、コンピューター部の顧問をやっていて、そこが寄せ集めというか、もしかすると美術部だったのかもしれないが部員が減っていつの間にかコンピューター部になっちゃったような、そんな感じかもしれません。そこで、美術部が欲しいとその先生にずっと相談していたんですけど、3年生になって「あなたが部長になるなら作ってもいいよ」って言われたので、それで作ることにしました。

後輩は入ったの？ 続いている？

入りました！ それは大丈夫です。一応、部は作ったんですけど、前からのコンピューター部を引きずっていて、ちょっと帰宅部みたいな感じで、なかなかちゃんと絵を描いてくれる人が集まらなくて(笑)。

高校はどうだったの？ 美術科とか行ったの？
家から通えるところに美術科のある学校がなくて……。せめて、美術部が盛んというか、しっかり活動している高校を選びました。高校受験のときは、まだ美大に入るということもはっきり決めていなくて、両親と相談して、勉強もするというので進学コースに入りながら美術部に入りました。両立させるのは大変でしたね。高校では、学園祭のときに、正門に大きなゲートを制作するのが伝統としてあるのですが、そのデザインと副リーダーを担当することになって、設計から制作までやりました。そこで作ったゲートは、豊橋市のお祭りでも展示される大きなものなんですよ。

大学に入るときは？
反対もありながらですけど、やっぱり小さい頃からずっと絵ばかり描いていたので、何となくそういう職業に就きたいなと思ってることに、親も感付いていたと思います。両親は美術系とか全然関係のない職業なので心配しますが、親類には水彩画をやったりジュエリーデザイナーがいたり、そういう人がいましたので何となくはわかってくれるとは思っています。

そうするとイラストレーターでも、会社勤めになれば安心してくれそうだね。大学に来てみてどうだった？

イラストやりたくて入ったんですけど、イラスト以外のコース、インダストリアルやったりテキストスタイル

やったり、すごくいろんな領域があってそれをチラチラと覗いたりできるのがすごくよかったです。自分の専門じゃないところに触られる、触れやすいっていうのはすごく勉強になる環境だと思います。ファンデーションもすごくいいですね。入ってきた人は、たぶん、何がやりたいって決めてない人が多いと思うので、選択肢を与えてもらえるというのは名芸のいいところだと思います。

迷ったりしなかった？

迷いましたよ。メディアデザインだったり、コミュニケーションデザインだったり、イラストなんですけど、イラストを使って別の媒体で表現するというのが面白くて、そっちもやりたくて迷いましたよ。高校時代からイラストだけでなく、ほかのこともいろいろやっていて違う方面の楽しさも少しは知っていたので考えますよ。でも、やっぱりイラストに専念しようと、ずっとやってきたことを形にしたいなと思ってイラストコースにしました。ああ、でも、迷うことも楽しさのひとつじゃないかと思います。

あとは卒業制作だけかな。単位は大丈夫？ (笑)

大丈夫です！ もう、単位、取れてます！ 卒業制作は、漫画作品を作ろうと思って、今はスケッチしたり、調べ物をしたりしています。漫画はあまり手を出していなかったので、初めてのことに挑戦しようと思ってます。イラストコースですから、もちろんイラスト重視ですけど、ストーリーも大事にしていきたいなど。展示も、そのまま本の形にしてもなかなか読んでもらえないので、ボードに印刷して壁に貼るようなことを考えています。ほかにも展示は……。

アイデアタップリだね！ がんばってね！ 卒展、絶対見に行きよ！

「芸術学部新入生全員でFirst Year Seminar (フレッシュマンキャンプ)」を実施しました!



INAXライブミュージアム

去る4月21日(土)に、本学芸術学部新入生全員が参加する「First Year Seminar (フレッシュマンキャンプ)」を実施しました。

参加者数は新入生450余名と教職員。大型バス12台に分乗して知多半島に向かいました。

まず、常滑市のINAXライブミュージアムの見学。駐車場から、ミュージアム入口に向かいまず目に入るのは、どっしりとそびえる大きな煙突。空の青が素敵な空間を演出していました。また、日差しを遮る

ように大きな樹木が木陰を作り、季節の風を感じる庭を中心に、ものづくりの歴史館が6棟建てられていました。①「世界のタイル博物館(1F)」②「タイル博物館(2F)」③「陶楽工房」④「土どろんこ館」⑤「ものづくり工房」⑥「建築陶器の始まり館、テラコッタパーク」の5会場を各バス毎の巡回経路により混雑を回避しながら見学。学生たちは素晴らしい世界最古のタイルや光で変わるタイルの表情(イスラームのドーム)を体験し、タイルの

歴史に触れるひとときとなりました。また、土・どろだんご館では、「光るどろだんご」を作る体験ができる空間があり、実際に展示されている「ツルツルピカピカのどろだんご」を見て、「作りたい!」との要望が多数寄せられました。ある建物内では流れ作業のように押し出される状態もあり、「もう一度、ゆっくり訪れたい」と、口々に話す姿が印象的でした。

その後、知多半島で浜焼きBBQを楽しみました。ここでは、三河湾の海を見ながら、500名が一度に入れるBBQ会場があり、各テーブルでは主に教職員、助手が焼き場を担当し、新入生との交流を各々に楽しむ姿がありました。食材は、サザエ、ホタテ、天然大えび、大アサリと浜焼きBBQらしい内容となっており、他には、牛肉の串刺し、チーズウィンナー、焼き野菜、焼きそばといわゆる満腹コース。BBQと海の風を楽しむには、もう少しゆっくりできる時間を確保できたらと感じました。

そしてバスは本学の竹本学長が館長を務める武豊町民会館「ゆめたろうプラザ」へ。

ここでは、First Year Seminarの最後を飾るイベントとして、武豊町民会館「ゆめたろうプラザ」にて、ミュージカルコースのステージが披露されました。このステージは、音楽領域のエンターテインメントディレクション&アートマネジメントコースが舞台制作、音響、照明を担当し、クオリティの高いステージを創りあげました。

ジャズやミュージカルなどのスタンダード・ナンバーから、名芸大生のキャンパスライフをミュージカル仕立てにした演目まで、本学学生が出演、制作スタッフも担当し作り上げた本格的な舞台に、会場を埋め尽くした新入生たちから盛大な拍手が送られていました。

2017年新たな一歩を踏み出した名古屋芸術大学ですが、このFirst Year Seminarを通して、教職員間、学生間に新しい発見もあり、領域を超えたすばらしい交流の場となったことでしょう。次年度以降への検討課題もありますが、この交流による学生たちの領域を超えた発想の展開、創造力により、斬新な芸術の発展を期待したいと思っています。



INAXライブミュージアム内「世界のタイル博物館」を見学

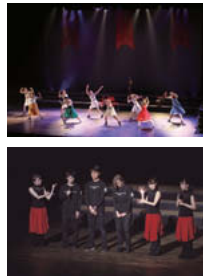


海の香りを楽しみながらBBQ。教職員、助手と新入生が親交を深めました



出演はもちろん、舞台制作、音響、照明すべて、音楽領域のエンターテインメントディレクション&アートマネジメントコースが担当

ミュージカルの行われた武豊町民会館「ゆめたろうプラザ」



本学ミュージカルコースのステージの様子と、観劇する新入生たち

音楽領域

「第2回 トロンボーンフェスティバル」が開催されました

2018年5月5日(土)・6日(日)、中部地方で活動するトロンボーン奏者(中学生、大学生、一般の愛好家、プロの奏者など)が一堂に会し、日ごろの活動成果を披露するイベント、第2回「名古屋トロンボーンフェスティバル」が本学にて開催されました。今回のスペシャルゲストとして、元ボストン交響楽団、ボストンポップスのバストロンボーン奏者のダグラス・ヨー氏を迎え、本学トロンボーンアンサンブル、愛知県立芸術大学、名古屋音楽大学、名古屋ト...

ンボーンアンサンブル、ヤマハ吹奏楽団トロンボーンアンサンブルなど、12の団体が出演する盛大な演奏会となりました。

フェスティバルコンサートに先立ち行われた「ウォーミングアップ講座」では、日本センチュリー交響楽団バストロンボーン奏者の笠野望氏を中心に行われ、音を出すためのポイントを解説。また、協賛各社によるトロンボーン展示・販売が行われ、来場者は実際に楽器を手にし、感触を試していました。

フェスティバルコンサートは、午前11時開演、18時30分終演の長丁場となりましたが、各団体とも、すばらしい演奏で大いに盛り上がりました。本学からは、高井涼佑さん、



1 ダグラス・ヨー氏(右)と蒲生祥子氏(左)
2 ウォーミングアップ講座
3 フェスティバルコンサート
4 出演者の皆さん
5 トロンボーン展示・販売会場

久山奈穂さん、塚原花南さん、伊達華奈さん、桂山祐未さん、安藤颯希さん、稲垣敦さん、ニ之湯明照さんの8名が参加、フィリップ・スパーク作曲「東京トリプティック」等、3曲を演奏しました。

ゲストのダグラス・ヨー氏のリサイタルでは、蒲生祥子氏・笠野望氏と共演し、ロベルトシューマンの「猥

呈/Widmung」など、7曲を演奏されました。

フィナーレは、M.ウィルソン作曲「76本のトロンボーン」を出演者全員で演奏。ホール全体がトロンボーン力強い響きに包まれました。

奏者・関係者の想いが込められた演奏に、会場からは惜しめない拍手が送られました。

音楽領域

「平和のピアノ」が開催されました

2018年5月5日(土)こどもの日に、広島で被爆したピアノを演奏し、音楽・朗読・おはなしを通じて、未来の子どもたちへ平和の尊さ、命の大切さを伝える「平和のピアノコンサート」が名古屋音楽学校にて開催されました。

被爆ピアノとは、広島原爆爆心地から約3キロの民家で見つかった1938年の日本楽器製造(現ヤマハ)製のピアノです。約20年前、広島に住む被爆2世の調律師「矢川

光則さん(65)」のもとに、原爆で傷ついたピアノが修理に持ち込まれました。被爆者の持ち主からそのピアノを託されたのをきっかけに、ご自身のトラックにピアノを積み込み、演奏活動をされるようになりました。たった一人で始めた「平和への種まき」が世界中に広がり、昨年、ノルウェーのオスロで開かれたノーベル平和賞の授賞式では、このピアノが世界中の方々の前で演奏されることとなり、その音色は、平和へのメッセージと感動を世界中の人々に与えました。そのピアノが名古屋音楽学校に運び込まれ、本学の学生が一丸となって「平和のピ...



1 声優アクティングコースの1年生による「ヒロシマのピアノ」朗読
2 まほろば遊さんと音楽コース学生による合唱

ノコンサート」が創られました。

本学に新設した声優アクティングコースによる「ヒロシマのピアノ」朗読、同コース非常勤講師、まほろば遊さんの歌。ピアニスト阿部篤志さん、ヴァイオリニスト友田友梨さんの演奏。その他、合唱担当の音楽コース、音響担当のサウンドメディアコース、舞台映像担当のメディアデザインコース、コンサート企画担当のアートマネジメントコースと、

様々な学生がコースの垣根を超えてこの舞台を完成させました。

さらに、本学と高大連携協定を締結した名古屋西高校の生徒さんも合唱で参加していただき、コンサート終了後は、制作風景を記録したメイキング映像も上演しました。

この「平和のピアノ」の舞台を完成させた本学の学生達に、会場を埋め尽くした観客から、惜しめない拍手が送られていました。

音楽領域

音楽学部同窓会「第37回 新人演奏会」が開催されました

2018年5月25日(金)、名古屋市熱田区 熱田文化小劇場にて、本学音楽学部同窓会主催の第37回新人演奏会が開催されました。

この演奏会は、本学を優秀な成績で卒業され、それぞれの分野で将来が囁望されている方々がステ...

ージに立ち演奏を行います。卒業して間もない演奏家や、本学大学院の研究生が、フレッシュなステージを披露しました。本学の講師や卒業生も多く来場し、期待を込めて演奏を見守りました。

プログラムは
◆井上優さん(ピアノ) 幻想曲へ短調 作品49 / F.ショパン
◆伴野文子さん(ソプラノ) 飛騨高原の早春 / 小林秀雄・約束 / G. ロッシーニ・歌劇「妖精ヴェリ」



より「もしお前たちのように小さな花だったら」 / G.プッチーニ
◆鈴木真良(ヴァイオリン) ツィガース / M.ラヴェル
◆竹田香蓮(電子オルガン) マゼランの未知なる大陸への挑戦 / 樽屋雅徳・Rhapsody ~過ぎに

しも、今行く末も〜 / 竹田香蓮
◆星野早紀(ソプラノ) 瞳 / 小林秀雄・私の愛の日々 / S.ドナウディ・歌劇「トゥーランドット」より「氷のような姫君の心も」 / G.プッチーニ
◆村田幸菜(クラリネット) 協奏的

Column NUA No.41

写真家を目指していた若き日の思い出

人間発達学部 准教授 東條文治

ウィリアム・アーサー・ウォードは「偉大な教師は生徒の心に火をつける」という名言を残しましたが、偉大な芸術家も作品を通して人々の心に火をつける達人といえるでしょう。

私は高校生の時に、写真を撮ることが一番の楽しみでした。毎週日曜日になると、自宅から自転車

で一時間ばかり離れた、神社の裏山の遊歩道を散策しながら、草花やそこに生きる蝶や蜻蛉などの写真を撮り続けていたのです。早起きも、神社までの道のりも、まったく苦ではありませんでした。小さな命をマクロレンズで撮影する自然写真に、のめり込んで行ったきっかけは、木原和人氏の写真でした。彼の作品は私にとって、「アリアミツバチの目線で見た世界の体験」であり、かつて見たことのない命の輝きを映像化した特別な存在でした。

当時、カメラ機材は今のようデジタルではなく

フィルムでしたし、フォーカスも露出もほぼ全手動で行って行っていたので、シャッターを切ったときのファインダーのイメージと現像所から仕上がってくる写真には大きなギャップを感じたものです。今のように、撮影後すぐに作品をチェックしたり、プリンターを使って家庭で好きなサイズの写真を、大量に印刷できる時代が来るとは思ってもいませんでした。

木原氏に弟子入りしてプロになるという夢を抱いたこともありましたが、高校卒業前にあこがれていた木原氏が癌で若くして亡くなられ、私は野外調査

大二重奏曲より第2・3楽章 / C.M.von ウェーバー

◆西村玲央菜(ピアノ) 歌劇「ファ

ウスト」のワルツ / F.リスト

以上の7名による演奏でした。

それぞれが、ひたむきに音楽に

打ち込んでいることを感じさせられる好演が続く、すばらしい演奏会となりました。

出演された演奏家による感性溢れる演奏に、会場からは盛大な拍手が送られていました。

デザイン領域

テキスタイルデザインコース 学生・卒業生が「有松絞りまつり」に出品

2018年6月2日(出)・3日(日)の両日、名古屋市緑区有松で開催された「第34回有松絞りまつり」にて、テキスタイルデザインコースの学生が作品の一般販売を行いました。

有松・鳴海絞りは、愛知県緑区の有松・鳴海地域を中心に生産される絞り染めで、国の伝統工芸品にも指定されています。

有松絞りの伝統技法をいまに受け継ぐ「張正」の協力のもと、生地から作品販売までの工程を経験する、本学と伝統技法である有松絞りの産学連携は、今年で7回目を迎えました。

2日間で10万人もの来場者がある有松絞りまつり。学生たちの出

店にも、たくさんのお客さまが訪れました。

学生たちが授業を通じて制作したオリジナルの手ぬぐいは、今年も祭り会場の一面に店を構える「張正」と「まり木綿」で販売されました。

会場を提供した「まり木綿」は、テキスタイルデザインコースの卒業生・村口実梨さんと伊藤木綿さんによる染めユニットで、新しい有松絞りの世界を楽しんでもらいたいと、ここ有松で制作と販売を行っています。手ぬぐいをはじめ、ワンピースや袋物など、板締め絞りに特化したカラフルでポップな染作品にはファンも多く、こちらも大変な賑わいをみせていました。

現代の暮らしに根ざしたものづくりを目指す作家によるマーケットイベント「A STOREHOUSE」では、本学卒業生であり、非常勤講師の



1 学生オリジナルの手ぬぐいを販売したお店「張正」
2 10枚作るために、試行錯誤も含めて30枚以上を染めて出来上がった手ぬぐいを、学生自ら接客し販売
3 「まり木綿」(左から)伊藤木綿さん、村口実梨さん
4 本学の学生や卒業生らも多数、有松絞りまつりに参加
5 名古屋帽子協同組合の販売ブース
6 「有松アトリエ」大橋真季さん

泉奈穂さんの「samio」が出品。訪れたお客さまに一品ずつ丁寧の説明しながら販売していました。

また、株式会社スズサンが運営する「有松アトリエ」では、卒業生の大橋真季さんが絞りの技法の1つである「縫い絞り」を使った商品を販売しました。

さらに、名古屋帽子協同組合のブースでは、学生がデザインし、染めをおこない、名古屋帽子協同組合が縫製して製品化された帽子が販売されていました。

伝統技法を学んだ学生や卒業生たちのこれからの活躍に期待が高まります。

名古屋芸大グループ校特集

名古屋芸術大学 保育専門学校

「保育専門学校のプレ実習(幼稚園)」の取り組み

本校では、1年生のカリキュラムに「プレ実習」を滝子幼稚園(幼稚園実習)・たきこ幼児園(保育所実習)で実施するように位置づけています。ここでは、滝子幼稚園でのプレ実習の実際について述べることにします。

実習のねらいは、本校への入学後、できるだけ早く保育の現場を体験させることにより、めざす職業のイメージを捉え、日々の授業の意味や価値を考えさせることです。

プレ実習の方法は、5月から7月にかけて、1年生を2班に分けて、金曜日の終日を隔週で4日間実施

しています。午前中は、幼稚園の3歳児から5歳児のクラスに入り、担任の指導を観察したり、園児の活動の中で触れ合ったりすることで、園児の理解を深めています。午後は、学校へ戻り、滝子幼稚園の教頭の指導の下、午前中に自分が感じ取ったり、体験したことをグループで話し合い、KJ法などを活用してまとめて、プレ実習で学んだことを共有しています。続いて、幼稚園に戻り、担任との懇談をして実習を振り返り、担任の活動の意図や質問などをして、さらに学びが確かなものとなるようにしています。最後に、1日の実習を各自が振り返り、まとめを記入しています。

この実習は、学校と幼稚園が隣接していなければ実施ができませんし、さらには、実習担当者と幼稚園の先生との連携・協力が必要で

あり、本学のように状況が整っていないとできない実習です。

このプレ実習の成果としては、自分では気づくことができなかった、子どもの見方・感じ方が、グループで話し合うことにより、様々な視点があるということに、学生が気づいてきており、次の実習への自己課題を持つことができるようになってきていることです。子ども理解を深めるということは、実際の子どもの

活動の中からでなければ、できないことです。

保育所での同様のプレ実習は、たきこ幼児園で7月から8月にかけて実施しています。

このプレ実習の課題は、現在プレ実習は単位が取得できるものではありません。学生の負担軽減の観点や実習と同様の学びが期待できること等から、単位化できないか検討をしていくことです。

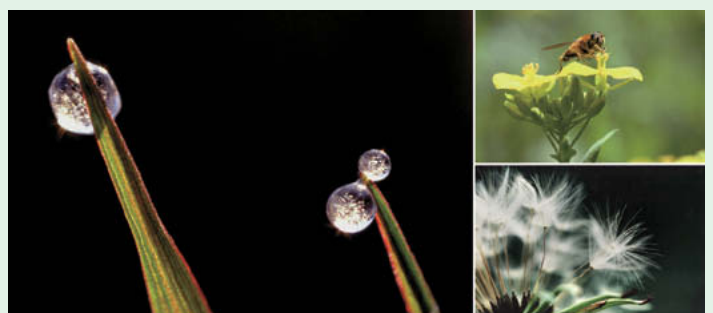


1 グループの発表
2 グループの話し合い
3 実習の様子
4 KJ法のまとめ
5 実習の記録

を中心とした自然科学の研究者の道を進むことになっていきます。とはいえ、当時学んだ写真の知識は、野外調査での記録写真、論文の図版用の研究試料の物撮り、インターネット昆虫図鑑の作成など、さまざまな場面で役立ってくれました。いつか再び、純粋に芸術作品として自然写真に取り組むことができる日が来ることを期待しています。

6歳になる長男は、今クラシック音楽に心を燃やしています。プロコフィエフのピアノソナタとチャイコフスキーのくるみ割り人形がブームで、お風呂で

よく歌っています。名古屋芸術大学の芸術学部と人間発達学部のスタッフは“人の心に火をつける達人たち”ですから、今の職場でともに仕事ができることをとても幸せだと感じています。





高校時代、美術科に進むことを反対され、野球に打ち込む。それでも思いは断ち切れず、大学は多摩美へ



大学院まで含め6年間、現代美術に取り組んだ。しかし、同時にその限界も感じた。「同じ世代で共有している社会が行き詰まった感覚については、学生たちにも話しますが、上手く伝わるかどうか分かりません。今の学生たちは、失敗したらもう後がないような、そんな感覚に捕らわれているような気がします。いろいろなことが、現実と向き合うことを難しくさせています」

マスター ↑↓to アーティスト 【第41回】

＜ 美術の影響力 ＞



丸岡慎一

(まるおか しんいち)

デザイン領域 イラストレーションコース
デザインファンデーション担当

1973年	神奈川県生まれ	2012年	KAMIKOANI PROJECT AKITA 2012(秋田県) 大地の芸術祭 越後妻有
1998年	多摩美術大学大学院美術研究科修了		アートリエナーレ 2012(飛び地開催) 『ひとりぼっちの卒業式』
2005年	第21回ニッサン童話と絵本のグランプリ 大賞受賞	2013年	KAMIKOANI PROJECT AKITA 2013(秋田県) アーティスト・イン・レジデンス 『I'm happier than you!』
	ポローニャ国際絵本原画展入選	2014年	現代地方譚2(高知県須崎市) アーティスト・イン・レジデンス [kaminokae]
	第21回ニッサン童話と絵本のグランプリ 大賞作品「しろいみち」出版		
2006年	ポローニャ国際絵本原画展入選		
2009年	ポローニャ国際絵本原画展入選		

2000年から、高校の非常勤講師、専門学校教師、大学講師として、長崎、北海道、秋田、高知、愛知を移り住む。教鞭を執るかたわら絵本作家、イラストレーターとしても活躍。美術教育、地域振興などにも広く携わる。

手に取った絵本。絵本というよりはアートブックといったほうが適切だろうか。絵本という子供のためのものであるが、絵本を作る作家も出版する側も子供にはできる限り良いものを与えるべきと考えるためか、大人の鑑賞にも堪えうる良作が数多くある。むしろ、成長した人間でなければ、そこに含まれている物語、絵、考えや感情、社会性を理解することができないようなものもある。丸岡氏が作り出す絵本は、子供もさることながら、大人の感性を揺さぶるような作品である。「いわゆる、売れ筋の絵本みたいなものとは少し違うんですね。あまり売れないですけど……。バランスが難しく、日本では売れ線の絵本を作りつつ、海外ではアート志向の強いものを作る。そんな方もいらっしゃいますね」

「中学生の頃ですね。絵が好きで、絵で食っていくためにはどうすればいいかと現実的に考えるようになりました。それで、絵本です。中学生が考えることなので、絵本なら売ってお金になる、わかりやすい思考ですね。絵本

をやるなら美術の勉強をしなきゃいけない、そういうことで美大を目指したんです」 こう聞けば、迷うことなく一直線に、と考えてしまうがそうではなかった。御父上は、美大へ進学すること、美術の道へ進むことに反対だった。「美術にはあまり縁のないサラリーマン家庭で、かつ、父親は祖父から反対されて美大をあきらめた口なんです。そうしたこともあって、同じように大反対されました。最初、美術系の高校に行きたいと考えましたが、それはもう寄って集って説得され、それなら、好きな野球のできる甲子園に行ける可能性がある高校にしたいと。それも、また寄って集って……。笑」 大学院への進学も理解を得られず、学費はアルバイトしながら賄ったとのこと。大学を出たあとは、就職もあいまいなまま作家活動を始めることになるのだが、家族の理解と支援のない船出はさぞや大変なことだっただろう。

興味深いのは、絵本作家になるため入学した美大だが、そこで現代美術に傾倒すること

になる。「美術の歴史について勉強をします。現代美術はコンテクスト(文脈)を大事にしますが、そうしたことを知るとやはり面白い。なにより、歴史的に見て、美術が世界を変えてきたという事実があります。自分もそういうことがしたい、若いので大きなことを考えていました」 大学院まで含め6年間、現代美術に取り組んだ。しかし、同時にその限界も感じた。「結果からいうと、現代美術ってあまり影響力がないなと思いました。その後、村上隆さんや奈良美智さんのような方が出てきて、こういうやり方もあったんだと思いましたが、僕は現代美術から離れました」 バブル景気がはじけ、阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件……。失われた20年の始まりの頃である。現在感じる、当たり前前に景気が悪い世の中よりも、なにかもっと行き詰まったような、答えの見つからない閉塞感が世の中に蔓延していた。そうした空気の中、やはり自分は絵本に取り組もうと考えた。「当時、2000年代に入る前、現代美術よりも絵本のほうが社会に影響を与えるのではないかと



「Le déménagement des lapins
(うさぎの引っ越し)」
2011
Ma petite Crokette (フランス)



「筆洗バケツの住人」2007
スカイフィッシュ・グラフィックス



「しろいみち」2005
第21回ニッサン童話と絵本のグランプリ絵本大賞 BL出版



「注文の多い料理店」2013 東京装画賞

「itadakimasu」
2013-2014



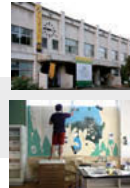
「オリジナル」
2016



秋田のアーティスト
発掘プロジェクト報告集
「うちのあかり」2014



上ノ江ラボ
2014



KAMIKOANIプロジェクト
秋田 2013



大野見米「森to光」
パッケージデザイン
2014

デザイン・アートの
視点から
地域の振興に関わる
取り組み

考えました。絵本に戻るようなかたちになりましたが、現代美術を志向したことは、幅広く表現について考えることができても良かったと思います」

一巡してからの絵本への回帰については「意外と中学の頃に考えたことから変わっていないような気がします。絵画や美術は、社会や人に影響を与えるものですが、子供が初めに見るものや小さい頃に見るものといったら絵本です。絵本は、その人に直接、影響するものです。大きく成長しても、子供の頃に見た絵本に影響されますよね。直接的には、その影響を見ることはできないかもしれませんが、確実に影響を与えることができる。それが絵本ではないか、そこが重要ではないかとずっと考えています」

大学院に籍を置かたわら、学費を稼ぐため、デザイン事務所でアルバイトし、大学院を出たあとは、高校の非常勤講師をやりながら、絵本制作に打ち込みコンペに出展を続けた。デザインの仕事、教えるという仕事、そし

て絵本制作。図らずも、このときから現在のかたちになるためのことを続けてきたといえるだろう。

そんな丸岡氏が、今年度から力を入れているのが、小中学生に1年間という時間をかけてデザインを教えるワークショップ「こどもデザインだいがく」である。「自分が絵を描くことの意味というか、特に若い頃は自己表現に近いものと考えていましたが、大学に関わるようになり研究することの面白さもわかって来ました。子供たちのためになにかする、大袈裟に言えば、絵本を作ることもワークショップをやることも子供に対する働きかけとして同列に考え、研究テーマの重要な部分に位置付けて考えています。絵本でやりたかったことを突き詰めて考えれば、直接子供に働きかけるワークショップは同じことです。社会の中で、「デザイン」に対する理解や認知は進みましたが、逆に誤解を生む環境も増えたように感じます。絵画ではなく、デザインそのものを主体としたこうした取り組みはあま

りなかったのではないかと思います」子供たちに働きかけることは、地域社会へ働きかけることでもある。社会があり、子供たちがいて、学校がある。地域振興へもつながる。芸術大学のある周辺地域には、もっと豊かな文化や共有できる価値観があるべきではないか、子供を通して、直接、地域に語りかけようとする行為でもあるという。失われた20年に感じていた閉塞感、こうした取り組みの中から打ち破られていくのではないだろうか。





2018年度 オープンキャンパス日程

- 8月18日(土) 10:00~16:00
芸術教養領域 人間発達学部
- 9月29日(土) 10:00~16:00
全学部
- 11月4日(日) 10:00~16:00
※ミニオープンキャンパス
全学部 (芸大祭と同時開催)
- 12月1日(土) 10:00~16:00
芸術教養領域
- 2019年
3月2日(土) 10:00~16:00
全学部

2018年度 音楽領域演奏会スケジュール(予定)

- [2018年]8月
- 第20回ピアノ/サマーコンサート**
日時/2018年8月10日(金) 16:00開演
会場/名古屋芸術大学東キャンパス 音楽講堂
入場料/無料(全自由席)
- 9月
- ウィンドオーケストラ第37回定期演奏会**
日時/2018年9月16日(日) 15:30開演
会場/豊田市コンサートホール
入場料/一般500円・大学生以下無料
- 10月
- 研究生特別演奏会**
日時/2018年10月25日(木) 18:00開演
会場/名古屋芸術大学東キャンパス 音楽講堂
入場料/無料(全自由席)
- 11月
- 第41回定期演奏会**
日時/2018年11月8日(木) 18:00開演
会場/電気文化会館 ザ・コンサートホール
入場料/無料(全自由席)
- 室内楽の夕べ 2018(第一夜)**
日時/2018年11月27日(火) 17:30開演
会場/電気文化会館 ザ・コンサートホール
入場料/無料(全自由席)
- 12月
- 室内楽の夕べ 2018(第二夜)**
日時/2018年12月1日(土) 15:00開演
会場/名古屋芸術大学東キャンパス 音楽講堂
入場料/無料(全自由席)
- Earth Echo 電子オルガン第21回定期演奏会**
日時/2018年12月6日(木) 18:30開演
会場/熱田文化小劇場
入場料/無料(全自由席)
- オーケストラ第36回定期演奏会**
日時/2018年12月12日(水) 18:30開演
会場/愛知県芸術劇場コンサートホール
入場料/一般500円・大学生以下無料
- [2019年]2月
- 研究生修了演奏会**
日時/2019年2月7日(木) 18:00開演
会場/熱田文化小劇場
入場料/無料(全自由席)
- 第17回 歌曲の夕べ**
日時/2019年2月8日(金) 18:30開演
会場/熱田文化小劇場
入場料/無料(全自由席)

- 大学院音楽研究科特別演奏会**
日時/2019年2月9日(土) 14:00開演
会場/名古屋芸術大学東キャンパス 音楽講堂
入場料/無料(全自由席)
- Kaleidoscope2019**
日時/2019年2月16日(土) 16:00開演
会場/名古屋芸術大学東キャンパス 2号館 3F
入場料/無料(全自由席)
- 3月
- ピアノのしらべ 第23回 春のコンサート**
日時/2019年3月1日(金) 17:30開演
会場/熱田文化小劇場
入場料/無料(全自由席)
- 第46回卒業演奏会**
日時/2019年3月7日(木) 17:00開演
会場/電気文化会館 ザ・コンサートホール
入場料/無料(全自由席)
- ジャズポップスコース卒業演奏会**
日時/2019年3月9日(土) 15:00開演
会場/名古屋芸術大学東キャンパス 音楽講堂
入場料/無料(全自由席) 整理券なし
- 第21回大学院音楽研究科修了演奏会**
日時/2019年3月10日(日) 15:00開演
会場/電気文化会館 ザ・コンサートホール
入場料/無料(全自由席)
- オペラ公演 喜劇「メリー・ウイドウ」**
日時/2019年3月16日(土)・17日(日)
開演時間未定
会場/西文化小劇場
入場料/未定

※予定につき変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。
お問合せ先/名古屋芸術大学音楽学部演奏課
Tel. 0568-24-5141

- チケット取り扱い場所**
- 名古屋芸術大学音楽学部演奏課
Tel. 0568-24-5141
 - 名古屋音楽学校
Tel. 052-973-3456
 - 愛知芸術文化センターB2Fプレイガイド
Tel. 052-972-0430
 - ヤマハミュージック名古屋支店プレイガイド
Tel. 052-201-5152
 - カワイ名古屋
Tel. 052-962-3939
- ※一部取り扱いのない公演がございます。

2018年度展覧会スケジュール(予定)

- 7/20(金)~8/1(水) ●素材展
- 9/21(金)~9/26(水) ●先輩・後輩展-久野利博と教え子たち-
- 9/29(土)~10/8(月-祝) ●美術領域 企画展
「ビヨンド・ワンダー~キュートピアへの道」
- 10/12(金)~10/17(水) ●Agnieszka Golda and Martin Johnson 'Slow Force'
- 10/19(金)~10/24(水) ●洋画1コース&彫刻クラス展
- 10/26(金)~10/31(水) ●書道アート展
●洋画2コース4年5人展
- 11/2(金)~11/14(水) ●デザイン領域 企画展
「ヨーロッパ自動車人生活」
- 11/16(金)~11/21(水) ●MCD デパートメント2018
- 11/23(金)~11/28(水) ●大学院レベルの交流展(仮)
- 11/30(金)~12/5(水) ●メディアデザインコース展
- 12/7(金)~12/12(水) ●こどもの空間 絵本と家具
●2018年度 後期交換留学生作品展
- 12/14(金)~12/19(水) ●洋画2コース2年3年生 選抜展(仮)
- 1/4(金)~1/9(水) ●アートクリエイターコース 陶芸・ガラスクラス
2・3年生合同展覧会「工芸展」
- 1/11(金)~1/16(水) ●日本画3年作品展
- 1/18(金)~1/23(水) ●幼稚園児たちのゲイジツ
●Hand hospespace 医療と美術2018
- 2/16(土)~3/3(日) ●第46回名古屋芸術大学卒業制作展・
第23回名古屋芸術大学大学院修了制作展



※会期・内容は変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。
【入場無料】どなたでもご覧いただけます。
お問い合わせ先 / (0568) 24-0325
Open/12:15~18:00 (最終日は17:00まで)
日曜休館

VISUAL LITERACY STUDIES

●発行/中部日本教育文化会

●発行/中野日本教育文化会

出 Books 版

教職員著作の出版物のご紹介です。
(編集期限までに報告されたもの)



「名古屋芸大グループ通信」
ウェブサイト



発行:名古屋芸術大学
企画・編集:広報企画部
デザイン協力:くまな工房一社
印刷:株クイックス
発行日:2018年7月27日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学 広報企画部
〒481-8502
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
電話 0568-24-0359
FAX 0568-24-0369
E-mail: grouptu-shin@nua.ac.jp

